

学生・企業・大学・政府の4者にとって おいしいIndustrial PhD制度とは

多義に注意→①人材そのもの ②育成課程 ③「活躍の場」の拡大システム

2026.4より「学長顧問+日本版 Industrial PhD推進機構長」

国立大学法人 電気通信大学 **学長** 田野 俊一 (tano@uec.ac.jp)



国立大学法人
電気通信大学
The University of Electro-Communications

Q1 Industrial PhDとはナニ？ 人材像なの？カリキュラムなの？

Q2 本当に効果はあるの？

Q3 学生・企業・大学・政府の4者にとってどこがおいしいの？

Q4 日本版Industrial PhDはあるの？

Q | Industrial PhDとはナニ？ 人材像なの？カリキュラムなの？

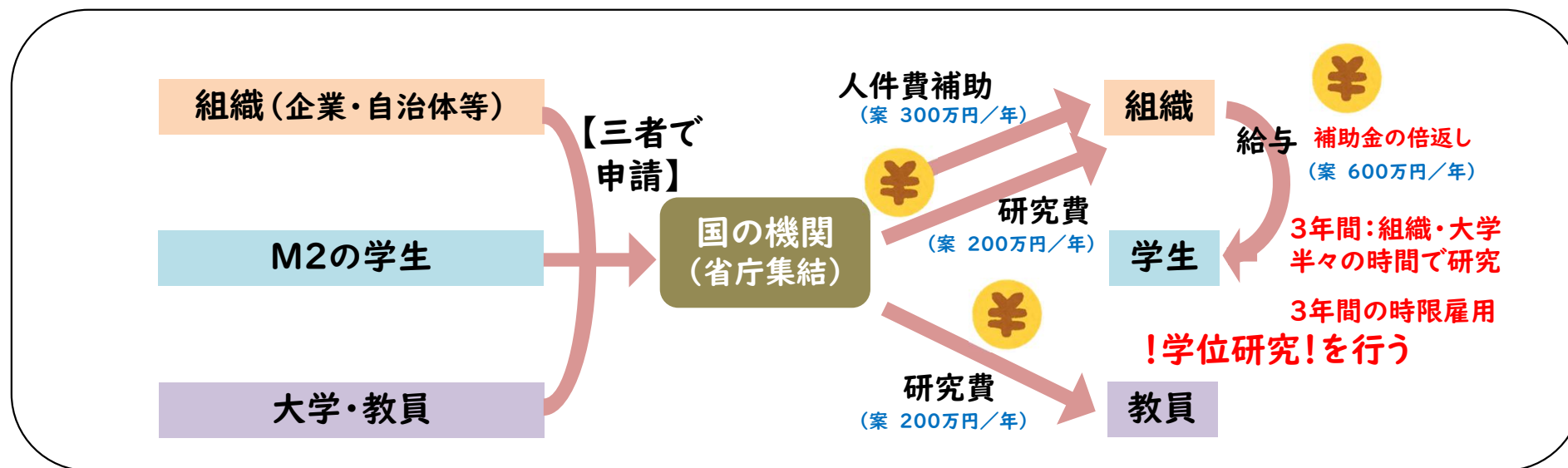
博士活躍の場をボトムアップで飛躍的に拡大するシステム

組合せに制限なし ≠ 選択と集中

要件チェック+さいころ
≠ 選択と集中

【博士研究テーマ(3年間)に取り組む
「自由な三者の組合せ(ボトムアップ)」】

【三者に「美味しいアメ」】



学生1名あたりの費用 700万円/年。3年で2100万円

起点=M2学生が「自身の学位テーマ」を胸に持ち、それを支援する(=興味を持つ)組織+大学・教員を探す!!

≠ 「インターンシップ」
「米国のCoop」

Q1 Industrial PhDとはナニ？ 人材像なの？カリキュラムなの？

Q2 本当に効果はあるの？

Q3 学生・企業・大学・政府の4者にとってどこがおいしいの？

Q4 日本版Industrial PhDはあるの？

Q2 本当に効果はあるの？

50年間のEUでの実績（起点はデンマーク1971年）

大企業だけでなく中小企業も 例：フランス(2012) 250人以下の中小企業36%

理系だけでなく人文社会系も 例：フランス(2011) サービスや商業・貿易なども

大都市だけでなく地方都市も 例：デンマーク(2008) 約4割が地方都市へ

その他 ●博士学生を受け入れると技術力が上昇

●多くの場合(4割弱)学生は企業に残る

●女性比率が急速に41%へ上昇(デンマーク2002-08)

古いデータだと指摘するのは誤り!!
この時期にすでに達成していることに注目!

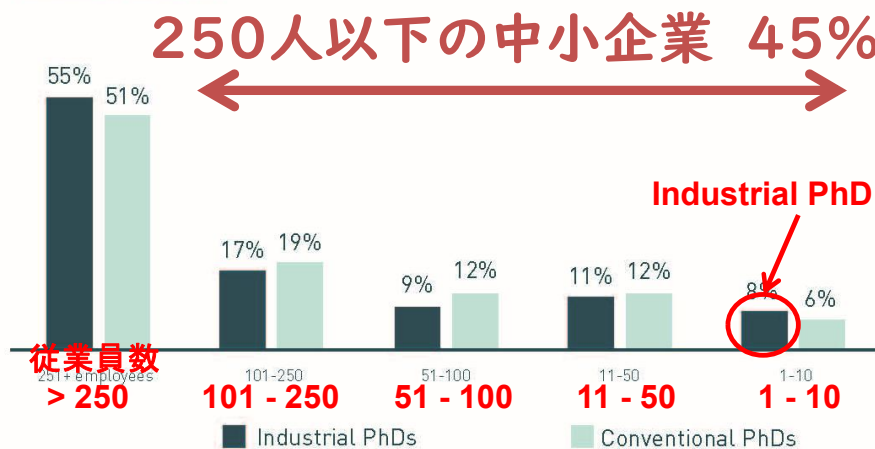
2022年EU全体で博士課程在籍者の女性比率は48.5%!!

大企業中心ではない。中小企業が半分ぐらい

【デンマーク 2009】

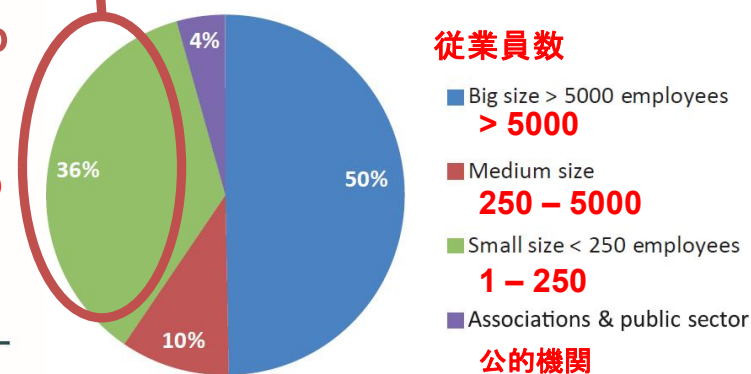
【フランス 2012】

FIGURE 5.2.1 Number of employees at the work place of Industrial PhDs and conventional PhDs 2009



250人以下の中小企業 36%

CIFRE fellowships allocated in 2012 according to the size of the company



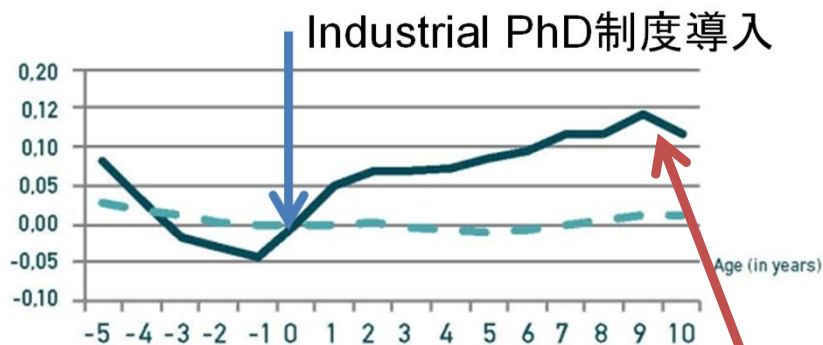
出典: Danish Agency of Science Technology and Innovation: The Effect of the Industrial PhD Programme on Employment and Income, 2013

出典: Associação Nacional da Pesquisa e da Tecnologia: Cifre, 2013

博士学生を受け入れると、技術力があがる

【デンマーク 2011】

FIGURE 2: Number of patent applications, high-quality matches.
Average number of patent applications per company, change relative to year before
first initiating an Industrial PhD project

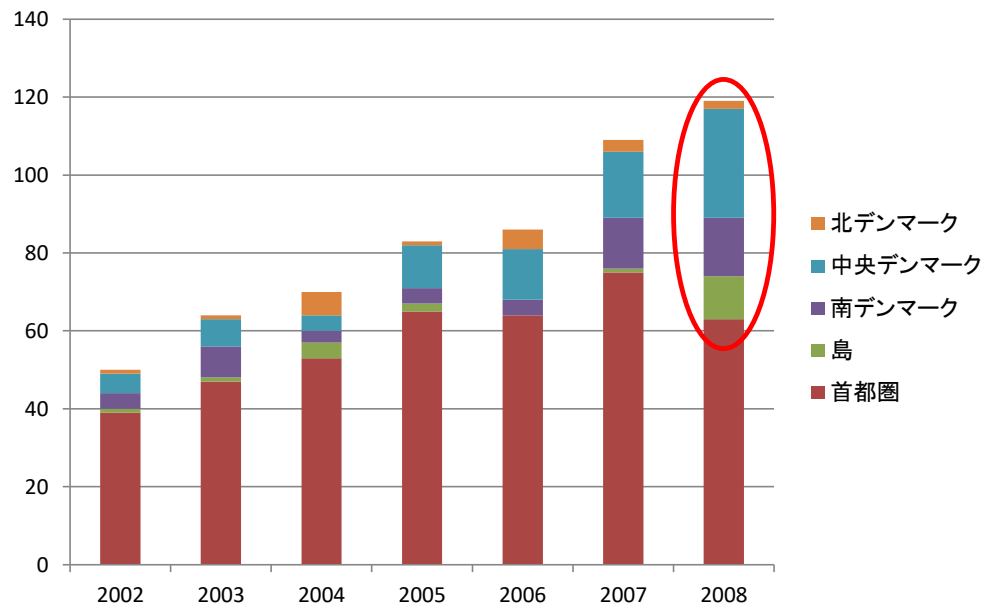


特許取得などの生産性が上がる

出典: Danish Agency of Science
Technology and Innovation: Analysis of
the Industrial PhD Programme, 2011

大都市だけでなく、地方都市も多い

デンマークの例 6年で約4割へ拡大



社会のマインドが変わる

組織 ⇒ 博士の能力、理系以外の博士の有用性を実感

学生 ⇒ 多様な活躍の場の発見（大企業・首都圏ばかりではない）

教員 ⇒ 多様な研究の場の発見（アカデミア・大企業以外でも面白い課題）

イノベーション型社会へ

- ① 理系だけでなく人文社会系も含めた**多様な博士人材**が、
- ② 理系の大企業だけでなく、大中小企業、スタートアップ企業、政府、地方自治体、マスコミなど**様々な組織**で、
- ③ 大都市だけでなく、中小都市、地方など**全国各地**で活躍する社会

日本のReboot

二流国へ転落の原因：「キャッチアップ型」から「イノベーション型」社会への転換失敗

Q1 Industrial PhDとはナニ？ 人材像なの？カリキュラムなの？

Q2 本当に効果はあるの？

Q3 学生・企業・大学・政府の4者にとってどこがおいしいの？

Q4 日本版Industrial PhDはあるの？

Q3 学生・企業・大学・政府の4者にとってどこがおいしいの？



表面的な「おいしさ」 = 日本での受け取り方!?

学生

- 経済的な安定
- 就職候補先の約束
- 実社会の課題の体験

大学

- 博士課程進学者の増大
- 博士課程進学者増大による研究力向上

企業・組織

- 安価に若手人材獲得可能
- 自社に役立つ研究成果の獲得

官・地方自治体

- 博士3倍増に寄与
- 国・地域の活性化に寄与

真の「おいしさ」

= 「世界の感覚」はこちら！
日本はずいぶん置いて行かれている？



Industrial PhDの意義=社会変革の手段

狭義

学生が企業・公的機関等に雇用されつつ博士研究を行う制度

広義

①博士課程学生の視点

- 大学と企業の「二重文化的環境 (dual cultures)」に属しながら研究
- 自らを「学术界と産業界の架け橋 (bridge builders)」と捉える

②大学の視点

- 教育改革・社会的使命・外部連携強化を同時に推進する手段
<アカデミックモデルから「社会連携型博士モデル」へと転換中>

③産業界の視点

- 研究開発力強化と人材育成の手段

④政策的視点

- 国家レベルのイノベーション政策手段

世界の流れ

出発点は欧州・デンマーク (50年前) → 各国で展開中

Industrial PhD

- 知識社会への制度的エコシステム
- 二重の社会化 (dual socialisation) での新博士教育
- 教育・研究・政策を統合する新たな知識生産モデル
- 大学・企業・政府の三者連携 (Triple Helix Model)

真の「おいしさ」

参考資料: 最新のサーベイ論文

Lorenzo Compagnucci and Francesca Spigarelli: “Industrial doctorates: a systematic literature review and future research agenda,” *Studies in Higher Education*, Vol.50, No.6, pp.1076-1103, 2024.

Q1 Industrial PhDとはナニ？ 人材像なの？カリキュラムなの？

Q2 本当に効果はあるの？

Q3 学生・企業・大学・政府の4者にとってどこがおいしいの？

Q4 日本版Industrial PhDはあるの？

Q4 日本版Industrial PhDはあるの？

!!ない!!

しかし、昨年10月に、文科省事業として
「日本版Industrial PhDを**試行し、国家の制度化を目指す事業**」
が始まった

未来を先導する世界トップレベル大学院教育拠点創出事業（文部科学省）

日本版Industrial PhDによる未来共創リーダー育成拠点

申請大学：電気通信大学

連携大学：東京海洋大学・北陸先端科学技術大学院大学

参画大学：お茶の水女子大学・東京外国語大学・東京藝術大学・東京農工大学・一橋大学・
北見工業大学・京都工芸繊維大学・豊橋技術科学大学・長岡技術科学大学・
奈良先端科学技術大学院大学・室蘭工業大学

14大学の連携で取組む（主幹校、連携大学、参画大学）



電通大がリーダー
+13大学 計14大学



連携先

文科省 博士育成 (SPRING・BOOST)
経産省 イノベーション・環境局 大学連携推進室
東京都 政策企画局 計画調整部 プロジェクト推進課
(総務省 自治行政局 地域政策課)

◎:主幹校 ○:連携大学 無印:参画大学

	理工系	人文社会系
東京	電気通信大学◎ 東京農工大学 東京海洋大学○ お茶の水女子大学	東京藝術大学 一橋大学 東京外国語大学
東京以外	北見工業大学 室蘭工業大学 長岡技術科学大学 北陸先端科学技術大学院大学○ 豊橋技術科学大学 奈良先端科学技術大学院大学	京都工芸繊維大学

スケジュール感とマイルストーン



[2026年1月版]



日本版Industrial PhD実現に向けた試行

▲ 中間評価

事後評価▲

◆ 日本版Industrial PhD制度設計 改善 国による実施を見据えた制度検討

調査、日本版方式検討、知財等の課題整理、他省庁予算統合方式検討、など

◆ コンソーシアム 設置 拡大 法人化

◆ モデル事業試行 フェーズ1: 理系+中小企業などで試行開始

フェーズ2: 文系や各地域、自治体・マスコミ等での事例へと展開

フェーズ3: コンソーシアムによる実施。マッチングシステム本格稼働

事例数(育成人数)の少なさが課題

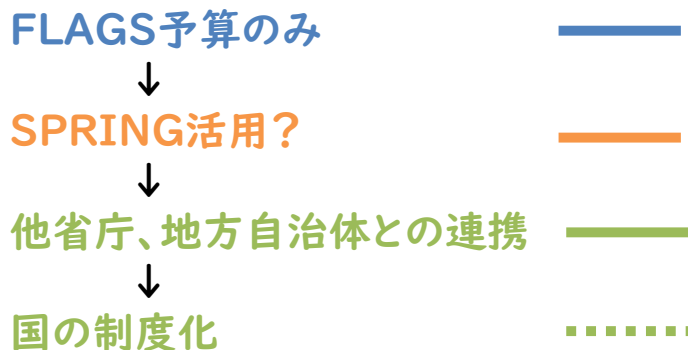
【事例数】 ミニмум14事例
※FLAGs予算のみでの試算
SPRING活用の場合、20事例
(他省庁、自治体等の援助が得られた場合)
FLAGs予算: 1.14億円

受入:3 (在籍:3)	受入:4 (在籍:7)	受入:4 (在籍:11)	受入:3 (在籍:11)	受入:0 (在籍:7)	受入:0 (在籍:3)
受入:5 (在籍:5)	受入:5 (在籍:10)	受入:5 (在籍:15)	受入:5 (在籍:15)	受入:0 (在籍:10)	受入:0 (在籍:5)
	+10	+20	+30	+50	+50
1.65億円	1.65億円	1.65億円	1.65億円	1.10億円	0.55億円

国の制度へ

事例数 (= 育成人数) の現状と拡大策

現状と目論見



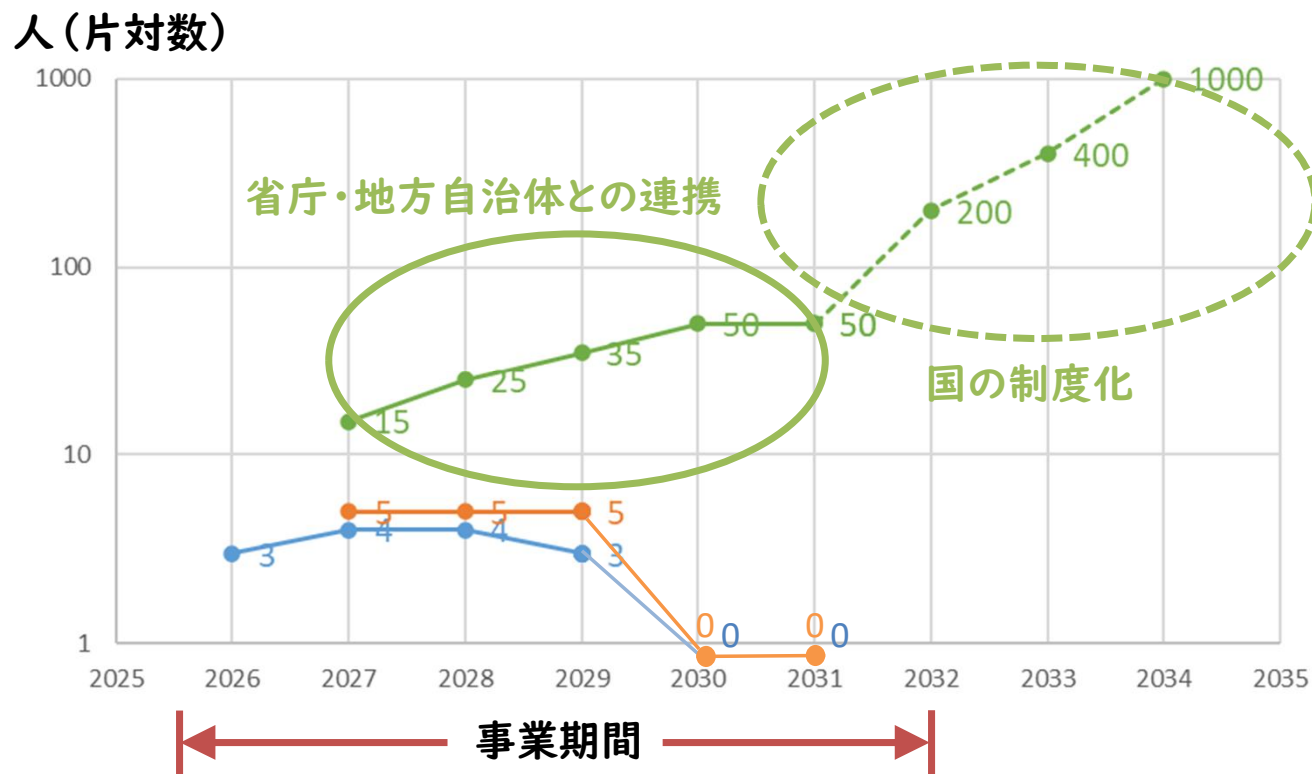
「国の制度化」の目標

欧州各国の現状と同等

↓
若手博士入学生の1割=1000人

(新規の予算ではなく
既存予算の束ね方の工夫)

Industrial PhDの新規学生受入数 (総数は約3倍)



●期待する協力

○学生

- ・自身の参加+自身の研究テーマを起点とした制度設計への参画

○企業・組織（産業界）

- ・企業・組織や業界団体として制度設計段階からの参画・意見提供
- ・博士学生の受入れ（研究テーマの共創、実証フィールドの提供）

○大学・教員

- ・教員個人や大学として制度設計に関する知見の提供
- ・学生への積極的な周知と参画支援
- ・従来の大学院教育を越えた新たな博士育成モデルの共創

○政府・地方自治体

- ・事業への資金的・制度的支援
- ・博士人材活用を軸とした政策連携・制度化への協力

●連絡先

電気通信大学博士育成支援室 FLAGs@office.uec.ac.jp

<事業推進体制>

本事業に共感する「**若手中心の三者のリーダー**」（教員+URA+事務 電通大U40s）

- ・これまでの経験に引っ張られず小さくまとまらない
- ・非連続の政策が必要!
- ・次世代のリーダー養成

2つの面での協力を!

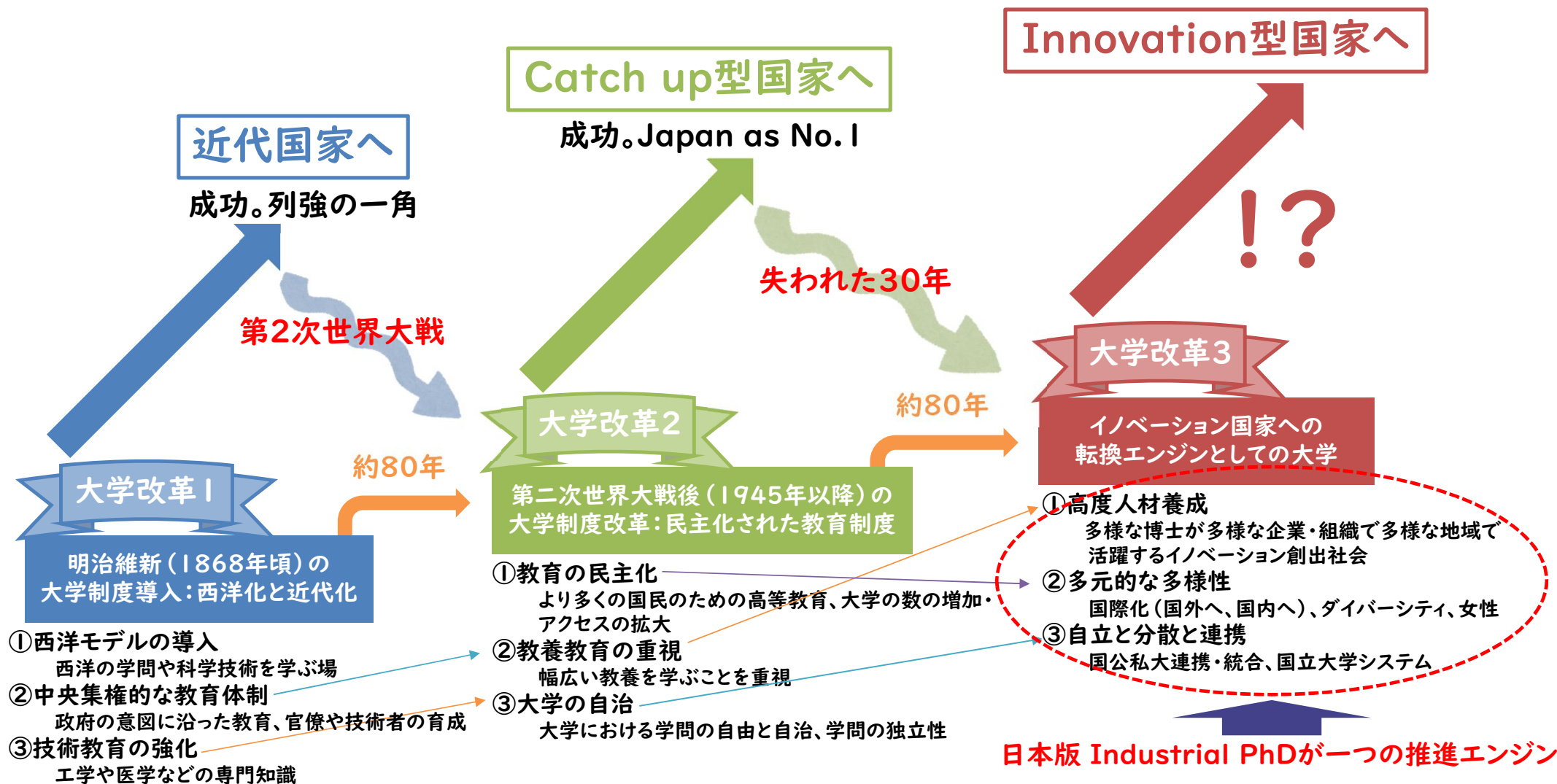
(1) 参加

特に当初の数年

(2) 制度設計への協力

将来の国の制度化

我が国の「3つの目の大きな大学改革」が必要な時期（田野私案）



ご清聴ありがとうございました。

「日本版Industrial PhDによる未来共創リーダー育成拠点」は
チャレンジングですが、日本を変える可能性を秘めた事業です。

様々な方々のご協力をお願い申し上げます。



イノベーションコモンズ(共創拠点)の創出の場: e-Nexus棟

電通大は、
共創進化スマート社会の
教育・研究・実現を協働で進める
多様な連携先を求めています